

令和元年度 第3回 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会 議事要旨

令和2年2月18日（月）

13：30～15：10

大垣市役所4階 4-4会議室

出席者：20名 欠席者：7名

- 1 福祉部長あいさつ
- 2 令和元年度各部会の開催報告について（各部部长）
→別紙資料1による
- 3 地域生活支援拠点等の整備方針（案）について（事務局）
→別紙資料2による
- 4 次期障害者計画等の策定について（事務局）
→別紙資料3、資料4による

<令和元年度各部会の開催報告について>

・権利擁護部会でのアンガーマネジメントを子どもの保護者へも広げていく活動があるとよい。

→ 子ども支援部会で保護者支援を実施している。検討していきたい。

・スマイルブックの活用状況、どのように活用されているか。高校卒業後の切れ目のない支援こそ大切なのではないか。

→ スマイルブックの配布は9年前より実施。2,300部発行している。幼児期より成長や支援をスマイルブックに記入し、毎学年、またステージが変わっても支援を引き継いでいけるもの。高校への引継ぎが課題で、市では高校年齢シートを作成した。活用しやすいシートを検討している。

・成年後見制度利用促進計画策定では、中核機関の設置がある。どのようになっているのか。

→ 令和3年度からの運用開始に向けて現在検討している。

<地域生活支援拠点等の整備方針（案）について>

- ・事前登録するハイリスク者の情報収集、その仕方と一元管理とされているか管理はどこがするのか。

- シートは支援者が聞き取りながら記載していく。一元管理は基幹相談支援センターや障がい福祉課で情報を一元して持つ予定をしている。

- ・地域生活支援拠点等には障害児相談支援事業所は入らないのか。

- 障害児・者を想定している。

- ・行動障がいがあるなど障がい児の保護者が対応しきれない場合や虐待につながらないための保護者のレスパイトとして地域生活支援拠点等に相談することはできるか。

- 相談は通常の相談で実施している。緊急時の定義にあてはまるかどうかである。まずは、介護者がいなくなった、それまで見てくれていた人がいなくなった場合から取り組みたい。

- ・委託相談支援事業所がコーディネーターとなっている。委託相談の相談支援専門員への業務負担となる。どのくらいの関わり度が必要か、どこまでできるのかなど協議していかなければならない。

- ・ハイリスク者の把握がされていくのは見通しがつくが、緊急受入れの社会資源が不足しており、受け入れ対応がすすんでいくかが懸念される。

- 課題が一度に解決できるものではない。まずは仕組みづくりをしながら、ご意見の不足部分をどう補っていくか検討していく。リスクのある方をリストアップすることで、居宅でみれる仕組みづくりができないかなど、まずは仕組みづくりを取り組みたい。

<次期障害者計画等の策定について>

- ・重度の障害のある方は支援施設を希望しているというアンケート結果が出ているが、家族のご要望か本人の回答なのか。障がい者自身が望む生活と家族が望む生活は必ずしも同じではない。実情がどうか分かるとよい。

- 記入者が誰かは分かるので集計可能。